

昭和三十六年五月十四日 「塾創立六周年記念式典」

「挨拶」

今日、私が御挨拶申すべき時じゃございませんで、北村先生に御挨拶していただくべきだろうと私は思っておったんでございませうが、今日のプログラムを見ますというと、なにか、しよっぱなから先生に御迷惑をかけてはすまないから、お前ちよつと挨拶しろとこういうことらしいのでございませう。これを最後に皆様に記念式典の御挨拶を申し上げます。

毎度申上げまするんですが、「年々歳々花相似。歳々年々人不同」、今日も皆様とお会い致しますると、何かこう和敬塾の環境はいつも同じでありますが、大変お顔も変っておりますし、それから元気な様子、大変諸君が和敬塾らしい学生諸君にだんだん変つてこられたことをひしひしと感じ、誠に喜ばしい次第であります。

いろいろいつもこの記念祭に臨みまして、万感胸に迫るものがあるのですが、私は一向こういふ難しい御挨拶は、最も不得意とするところでありませうので、あまり呶呶(どど)

を申上げたくございませんでございませうが、毎度塾生諸君が入塾されますときに私が申上げます、あのものの考え方が、いつも今日も思い出すのでございまして、先程も北村先生が後藤新平さんがボーイ・スカウトをやつて若さをチャージするんだとおっしゃられたというお話でありまするが、私は無論それもありまするが、私のまずつとめるべき義務は、また私も理事当事者の立場は、皆様がたが立派な社会人として伸びていただくために、羊飼いのコリ一になつて皆様を猛獣にも襲われないように、また水にも溺れないようにして、青草を丘から丘へ腹一杯食べてもらつて、すくすくと立派な羊になつてもらいたい。私どもが番犬を勤めておるんだという考えであります。決して諸君を教育しようとか、指導しようとかそんな大それたものの考え方はいたしておりません。こうした考え方こそ、われわれ塾当事者が本当のことを考えておるのではなからうかとかう存じておるのであります。

ただし和敬塾の掲ぐる理想は大きなものがあるのでありまして、これは諸君自らセルフメイトしていただいて、皆様で立派にのびていただかなければなりませんので、馬は河に連れて行きますが、水は自分で飲まなければいけないのであります。どうぞその意味におきまして、この諸君は学校で学問知識をみがかれると同時に、今まで故郷の御家庭であたたかな徳育教育をうけられて、御両親方の感化をうけられておられたのが、今遠く郷里を離れ、殺伐たる都会に生活されるにあたりまして、ここがその徳育と申しまするか、はなはだ失礼でございませうが、諸君の人的なもの、教養と申しまするか、あるいは情操と申しまするか、そういった面を高めていただける一つのチャンスになればと思つて、お守りを申上げている次第でございませう。

食事とかそういう点におきましては不満な点も多々おありと存じまするが、我々もゆるされる範囲におきまして、あらゆる努力を致しま

理事長 前川喜作

して、諸君の勉学と人間完成の努力に報いたいと存じ上げておりますので、どうぞそのつもりで不行届の点は御了承願いたい。

それからもう一つ申し上げますが、和敬塾はただ今、まだ創立後六年しかありませんのであります。二度申上げることになるのですが、私は当年六十六歳でありまして、諸君が私どもの年になられると私どもと同じように孫を膝にだいて、そして「おじいちゃまはねえ」といって昔語りをなされる日が必ずあるだろうと思うのであります。私が私の日常生活の一番楽しい時は、帰ります。私が私の日常生活の一番楽しい時は、帰ります。私が私の日常生活の一番楽しい時は、帰ります。おそらく諸君もその日は必ず来られるだろうと思います。しかもそれはわずか四十年先だろうと思います。四十年と申しますとわずかでもございませぬが、近頃の科学の進歩のスピードを計算に入れますと、明治、大正時代の二百年にも五百年にも当る変化がもたらされるのではないかと考えるのであります。

おそらくその時分には日本も支那もなくなつてしまつて、おそらくワールド・フェデレーションが出来て、世界国家が出来、世界憲法が出来て、各国から世界代議員を出して世界の政治家が集まつて、世界の経済、世界のいろんな生活を規制してゆき、エンジョイする政治体制が行なわれるのであると思います。現在北村先

生も世界連邦の日本の支部の一室でいろいろ御指導いただいているのでございます。私もその民間人の一人としてお手伝いさせていただいていまして、おそろくその時分になりますという、諸君のうちから、必ずこの和敬塾グループからは立派な代議員も得られ、世界的な人物も輩出されて、本当の諸君の経綸を執行される日が来るのではないかと、いや必ず来るだろうと思つて、私は念願もし且つ相当のプロバビリティーにおいて自信も持つておる次第であります。

この創立後五年か六年の間に諸君が塾生活をされたのでありますから、その当時の和敬塾と申しますものは、おそらく世界に名だたる立派なインスチテュートとして注目の認識を深められることと存じますのであります。

世界的視野において物を考えるといわれますのと同時に、時間的にもそういった少なくとも三十年、五十年、諸君の一生を、先を考えられますという、和敬塾ライフも決して皆様の人生と生活を遊離したものでありませんので、すこぶる深いコネクションを持つたもので、あるいは一つの齣でありますので、その意味におきまして、日常和敬塾の綱領としてあげております和敬と、それから良識の心にあつく、そして勇気を養うといったような面、いろいろ自分自身で和敬塾ライフを有意義な

ものにしていただきたい。

本日の記念日に際しまして、いささか所信を述べまして、どうぞお身体をたっしやに、しっかり勉強して、元氣のある青年になつて、社会に出ていただきたいと存じております。

※当DVD収録のご講演録には、現在では不適切と思われる表現が用いられている場合がございますが、講演時の時代背景等を尊重し、当時のままといたしました。